

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第5週以降1週間当たりの推定患者数は3週連続で100万人を上回る一方で、第7週（2月15日～21日）の患者数は前週よりもやや減少しており、第8週も引き続き減少していくものと予想されるものの、今しばらくは本格的な流行が継続する可能性あり』

2016年2月23日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

### 薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

（[http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015\\_16/index.html](http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/flu/2015_16/index.html)）からの2016年第7週（2月15日～21日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は1,248,152となり、3週連続で100万人を上回りましたが、前週の値（第6週：1,348,670）よりもやや減少しました（図1）。各都道府県別の第7週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、奈良県、富山県、広島県、岐阜県、北海道、兵庫県、大阪府、滋賀県、愛知県、大分県、岡山県、静岡県、長野県、鹿児島県の順となっています。近畿、中国、四国地方を中心に23府県ではまだ増加していますが、関東地方の全ての都県を含めた23都道県では減少がみられています。また、2月22日（月）の推定患者数は282,319と第7週の月曜日の値（2月15日：312,172）よりも減少しており、第8週（2月22日～28日）は第7週に引き続いて減少していくと予想されま

す。

2015年第36週から2016年第7週までの累積の推定患者数は5,253,563(5,254,000)であり、年齢群別では5～9歳（21.5%）、40～49歳（13.3%）、30～39歳（12.9%）、10～14歳（12.5%）、0～4歳（11.1%）、50～59歳（7.6%）、20～29歳（7.0%）、15～19歳（5.3%）、60～69歳（5.4%）、70歳以上（3.4%）の順となっています（図2）。殆どの年齢群では患者数は減少していますが、70歳以上の高齢者層ではまだ増加がみられています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（1,783検体解析）は、A/H1pdm 54.2%、B型 30.0%、A/H3（A香港）亜型 16.2%の順となっています（図3）。また、直近の5週間（2016年第3週～第7週；これまでに924検体検出報告）では、A/H1pdm 56.8%、B型 35.2%、A/H3（A香港）亜型 8.0%の順となっていて、1月以降

は A/H1pdm と B 型インフルエンザの混合流行が続いています。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの患者数は 1 月に入って急増して第 5 週、第 6 週、第 7 週と 1 週間当たりの推定患者数は 3 週連続で 100 万人を上回る一方で、第 7 週の患者数は第 6 週よりもやや減少しており、第 8 週も引き続き減少していくものと予想されます。ただ、現在の、B 型インフルエンザの流行状況をみると、患者数の減少はゆるやかであり、今しばらくは本格的な流行が継続する可能性があると思われます。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

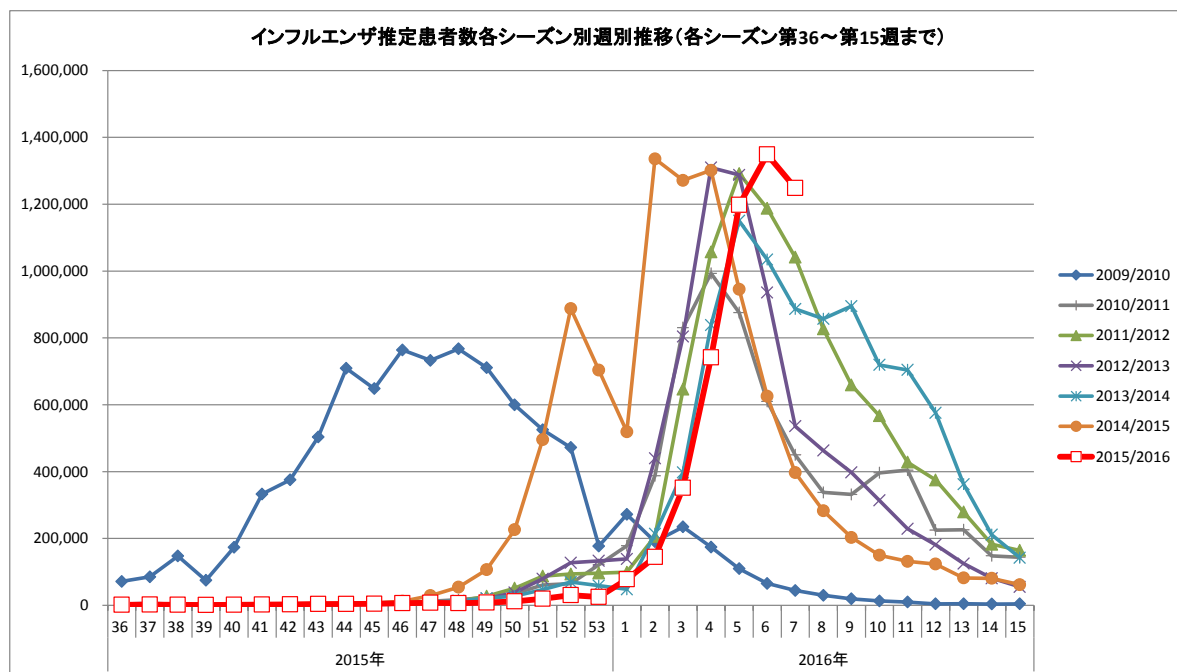


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～第 15 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

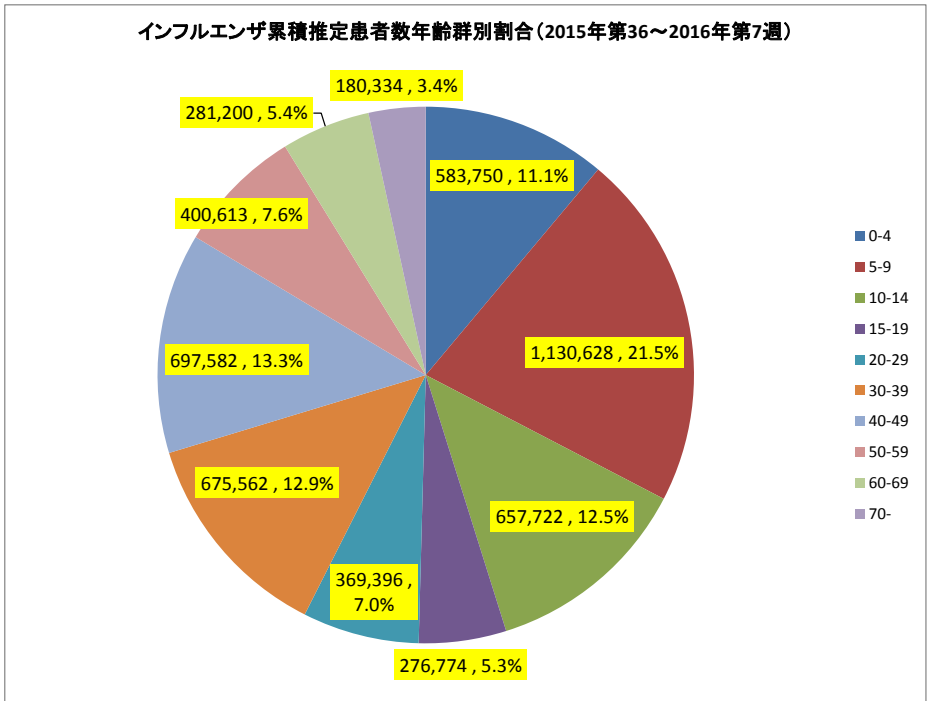


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～2016 年第 7 週、累積推定患者数= 5,254,000)

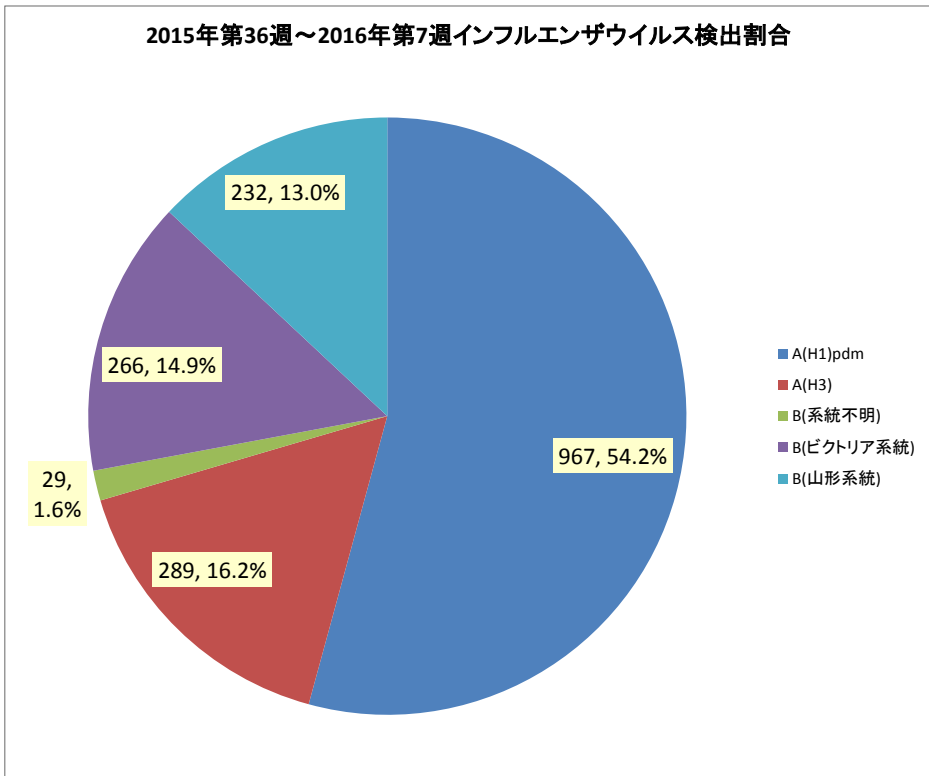


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 7 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=1,783)